

総務教育常任委員会報告書（令和6年12月11日）

委員長	奥田	伸行
副委員長	尾嶋	準一
委員	中山	功一
委員	河本	文哉
委員	蓑原	美百合
委員	斉尾	智弘
委員	長谷川	昭二
委員	野田	秀樹

総務教育常任委員会の所管事務の調査を実施したので、北栄町議会会議規則第47条の規定により委員会報告書（中間）を提出します。

記

【調査研究（現況確認）の相手方】

北栄町教育委員会、町立の小・中学校（4校）

【期間】

令和6年10月8日（火）～11月6日（水）

【場所】

10月 8日 AM 大栄小学校
10月22日 AM 北条中学校
10月23日 PM 大栄中学校
11月 6日 AM 北条小学校

【目的】

①教育の質の向上：

教育現場を直接視察することで、授業の進行状況や教育方法の効果を確認する。これにより、必要な改善点を見つけ出し、教育の質を向上させるための具体的な対策を講じることができるため。

②生徒・児童の学習状況の把握と予算の効率的な配分：

生徒や児童の学習態度や理解度を観察することで、個々の学習進度や困難を抱えている点が把握できるうえ、学校の運営状況や必要なリソースを把握することで、限られた予算を効率的に配分できる。これにより、教育環境の改善や生徒の学習支援に必要な資源を適切に確保することができるため。

③地域社会との連携強化：

学校経営に関する知識を持つことで、地域社会や保護者との連携を強化で

きる。これにより、地域全体で子どもたちの教育を支える体制を築くことができ、学校運営の透明性と信頼性を高めることができるため。

以上、3項目の目的達成のために教育現場を視察する。

【方法】

教育委員に向けた「学校計画訪問」に同行し、各校校長、教頭、各学年主任などの学校経営計画（現状、成果と課題）の説明をうけ、その後学習状況を確認するため授業参観を行う。

【調査項目】

- ①学校経営等の把握
- ②児童・生徒の実態（生活・学習）の把握
- ③学習環境の整備状況

1 概要（要旨）

（1）大栄小学校（野田・河本班）

①学校経営等の把握

校長の熱意が児童、教員へ伝わり、それぞれ相互に良好な関係が構築されていた。また、校長が一人ひとりの児童の状況を把握し、それぞれに必要な対応を行っている。

②児童・生徒の実態（生活・学習）の把握

校舎が大規模改修中であるなかでも、児童は動揺もなく落ち着いて学習していた。1名、学校に通いづらい児童はいるが、本人の意思に配慮しながらも先生も寄り添って、問題に向き合っていた。早退、休み、遅刻はあるが学校と児童との距離（心・気持ち）は離れないようにされていた。

③学習環境の整備状況

築50年を迎え、老朽化対策工事（長寿命化）を施工中、児童の動線を確保しながら安全に工事を行っていた。

（2）北条中学校（尾嶋・奥田班）

①学校経営等の把握

教育委員会を通して他機関との連携を図り、安心安全で生徒が学びやすい学校経営に努めている。

②児童・生徒の実態（生活・学習）の把握

授業は落ち着いていた。コロナ以降マスクの取れない生徒が多く、表情がわかりにくいのでコミュニケーションがとりづらい中でも、教員もしっかりと生徒に寄り添って対応がされている。いまこの状態のときに良い姿勢が身につけば、落ち着きがいつそう定着する。

③学習環境の整備状況

とくになし

(3) 大栄中学校（蓑原・長谷川班）

①学校経営等の把握

今年度の創意ある学校経営の説明あり。

②児童・生徒の実態（生活・学習）の把握

タブレットを持っていない生徒がいた。

ワンフロアで2年A組と1年A組の授業があった。1人の教師で学年が違う2人ずつの生徒に対して授業。

「自信なくてもいいぞ！」という教員の声掛けは、生徒が発言しやすいと感じた。理解度に合わせた少人数教室の取組はいいシステムだと思う。教員が座って授業、教師の装いが一部気になった。理解を促す困難さを痛感し、教師の指導力の重大さを感じた。

③学習環境の整備状況

大型モニターの位置、文字サイズ、色別（生徒が見やすい）の工夫が不足していると感じた授業があった。（大型モニターを見やすくするためカーテンが閉められ、自然光が取りいれにくく照度が足りない気がする。）

④その他

教育課程、人権教育、生徒指導、小中連携、CS については「学校たより」で報告とされており、説明はなかった。時間不足を感じました。

(4) 北条小学校（中山・斉尾班）

①学校経営等の把握

警察や弁護士などの外部機関と繋がりながら、また、職員研修による職員のスキル向上を図ることで、児童のための落ち着いた環境を整えていた。

②児童・生徒の実態（生活・学習）の把握

2人程度落ち着かない児童あり。（事業中、教室を離れてうろつくなど）全体的にも落ち着きがない雰囲気。→全国学力・学習調査も国語、算数ともに平均を大きく下回っている。

③学習環境の整備状況

一部屋で複数学年を一人の教員が担当する場面もあったので、職員配置、教室の使い方にはさらなる援助が必要と感じた。

2 考察

【結論】提言は行わない。

学校がどのように運営されているのかを知るよい機会となった一方で、児童・生徒の実態（生活・学習）は、まだ点でしか把握できていない。4校をそれぞれの委員が違った目線でみることや継続して状況等を把握していくことで、断片的な点の情報が線になり面となっていくものと考えられる。そのなかで問題（課題）についても明らかにもなってくることから、委員会として何らかの

措置（対策等）を講じていくためにも調査研究を継続する。

3 その他（方向性等）

今後は段階的に取り組んでいくことが望ましい。

①議員各位の教育政策の策定（立案）と実施にむけた取り組み

学校経営等の現状を把握することで、地域の教育ニーズや課題を正確に理解できるようにする。これにより、効果的な教育政策を策定（立案）することや、それを適切に実施させることができると考えられる。

まずはそのために計画訪問のみならず、同日公開参観日や北条大トーク大会などの機会を通じて、子どもの意見に耳を傾けることや、子どもたちの実態の把握に努め、問題（課題）を洗い出し、分析を行い、論点を整理して政策提言ができるようにしていく。

②学校運営の透明性と信頼性の向上に寄与する取り組み

議会だよりや議会報告会の機会を通じて、学校経営のあり方等について踏み込むことで、学校経営の透明性を高め、保護者や地域社会からの関心や信頼を得ることができる。学校経営等を確認することができる「学校計画訪問」に引き続き同行し、課題（問題）等があれば、論点整理し、その内容や政策提言した内容等をフィードバックすることで、教育委員会や学校、あるいは保護者や子どもたちと信頼関係を構築し問題（課題）を共有して、地域の中で学校がどうあるべきかについて、最適な学校環境等を模索していく。

③意見交換を深化させる

教育委員が学校経営等にどのように関わっているかを把握し、その状況等を踏まえて「意見交換会」を深化させる。